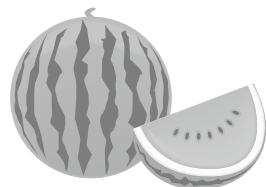




つばさだより No.273
2017年8月



| | | | |
|------------|---------------|------|---------------|
| つばさ薬局 多賀城店 | ☎022(366)8001 | 吉川店 | ☎0229(22)7010 |
| 長町店 | ☎022(308)5711 | 泉店 | ☎022(772)1571 |
| 船岡店 | ☎0224(58)1065 | 若林店 | ☎022(289)8777 |
| 中新田店 | ☎0229(64)1888 | 松陽台店 | ☎022(361)9444 |
| 松島店 | ☎022(353)2990 | 上杉店 | ☎022(212)1126 |
| 玉川店 | ☎022(365)2838 | | |

今年の夏は猛暑になると言われていますが、冷たいものばかり摂り過ぎていませんか? つばさ薬局では暑い8月のこの時期に毎年、原水爆禁止世界大会への職員参加と、薬害根絶デーの活動を行っております。そもそも、皆様は「薬害」が昔の事件ではなく、今もなお起きている社会問題であることをご存じでしょうか?



薬害
とは...



薬には、飲んだ人が効果を期待する作用の他に、副作用という望まない症状があることは皆さんもご存じだと思います。私達、薬剤師は患者様にはなるべく薬が有効に働いてほしいと思っていますが、副作用による健康被害についても注意して聞き取りを行っています。むしろ、副作用の早期発見や予防は、薬の安定供給と共に、薬局が患者様に提供する大きな役割です。薬剤師は薬について学んだ知識を用いて、製薬メーカーが提示した副作用情報を踏まえて、患者様に安全安心に薬を使用して頂くための情報提供に努めています。

では、薬害はどうでしょう。薬の副作用による健康被害であることは同じですが、薬害はそこに社会的に容認できない事象があると言えます。つまり、製薬企業や研究者等が自分達の利権を守ろうとした結果、服薬した人達の健康被害を拡大させるに至った「人災」です。私達薬剤師には薬の専門家として、このような事件が二度と起きないように、企業や社会を監視する役割があります。



日本で起きた主な薬害の歴史

薬害は加害者と被害者が存在する事件であり、訴訟によって争われることも多いのですが、必ずしも被害者が納得のいく判決が下る場合ばかりではありません。せっかく訴訟を行っても、発症から数十年経過し、判決が出たころにはお亡くなりになっている被害者も多いのが現状です。薬害が起こるたびに、医薬品の承認や再評価、薬事法改正等の規制強化が行われていますが、未だに薬害は無くなっていません。

参考として以下に、過去日本で起きた薬害の一部を紹介致します。

| 年代 | 薬害の名称 | 被害の内容 |
|------|---------------|--|
| 1948 | ジフテリア 予防接種 | 京都で68人死亡。606人に発熱や嘔吐、注射部分の腫れ。島根でも発症 |
| 1961 | サリドマイド | 鎮静催眠剤を服用した妊婦から手足や耳に奇形をもつ子供が約千人発症 |
| 1970 | スモン | 整腸剤キノホルムにて下肢のマヒや視力障害などの末梢神経障害が多発し、自殺者など被害者は約1万2千人 |
| 1971 | クロロキン | 抗マラリア薬、抗炎症薬による視力障害。被害者は千人以上。 |
| 1983 | 薬害エイズ | 米国の非加熱製剤を使用した血友病患者約5千人がHIVに感染。583人が死亡。国の判断が遅れ被害が拡大 |
| 1993 | ソリブジン | 帯状疱疹薬と抗がん剤の併用により、15人が死亡 |
| 2002 | 薬害肝炎 | 出産時や手術時に血液凝固製剤を投与された患者がC型肝炎ウイルスに感染。被害者は約1万人以上 |



何故、薬害は無くならないのか？

医薬品を取り巻く環境として「利益相反」があります。患者様にとって薬とは健康であるために必要な要素を補う物であり、時に生きていくためには必要不可欠なものになります。一方、医薬品を作る製薬企業にとって、薬は自分達の企業価値を高め、自分達の生活水準を高めるための商品としての側面があることは確かです。双方の利益のバランスを保つのは国の責任であり、監視するのが行政ですが、時に誤った判断や見逃しにより患者様の権利がないがしろにされることがあります。

また、製薬企業はその医薬品を販売するための戦略として、資金等の提供により医薬品の専門家や医師を抱え込み、「病気づくり」※や医薬品評価に影響を与えることが起こっています。

※TVや新聞で一部の病気について過大宣伝し、自社の薬の使用を増やす行為

このような戦略や医学業界の癒着を監視するために、民間の医薬品監視団体「医薬品治療研究所」「医薬ビジランスセンター」「薬害オンブズパーソン会議」などが発足しています。私達、つばさ薬局もこれらの活動に共感し、とくに「薬害オンブズパーソン会議」が主催する、薬害根絶デーの活動には毎年参加しております。



新たな薬害？～HPVワクチン被害について

HPVワクチンとは子宮頸がんを予防するワクチンのことであり、2009年の発売以降、ワクチン接種の公費助成や啓発活動により、10代前半の女子の接種率が急激に上がりましたが、接種後に体調異常をきたす女性が急増し、2013年に積極的な接種勧奨の中止がされています。ワクチンと

の因果関係は未だに不明ですが、頭痛、関節痛、しびれ、脱力感、記憶障害など多彩な症状が報告されています。

昨年の薬害根絶デーの前日に行われた決起集会では、現在高校生の女性が、中学生時代にワクチンを受けた直後から、記憶障害等の健康被害に悩まされ、高校受験の勉強も頭に入らなくなり希望の高校を諦めたことや、運動機能障害から常に車イスで移動しなくてはならない高校生活のことなどを、話されていました。原因が何であれ、ワクチン接種が健康被害の引き金になる可能性がある以上、国には被害者の救済を最優先に考えてほしいと思います。



薬害を無くす ～薬害根絶デーの誓い

1999年8月24日、当時の厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。翌年から、この日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体「薬被連」が国と交渉をおこなっています。薬被連は11の薬害被害者団体が加盟していましたが、2016年からHPVワクチン薬害訴訟全国弁護団が加盟しました。

薬害根絶デーでは、毎年この碑の前で、被害者団体の代表から厚生労働省大臣に請願書を渡し、薬害を無くすという誓いを再確認しています。皆さんも、是非、この薬害という問題について関心をもって頂き、8/24の一日だけでも私達、薬局の職員と一緒に、この問題について考えて頂けることを願っています。

〈参考資料・参考文献〉

薬害オンブズパーソン会議MedwatcherJapan
薬害根絶デー記録集
全国薬害被害者団体連絡協議会HP



9月の無料栄養相談予定 (各店10:00~12:00開催です)

- ・ 6日(水) 長町店
- ・ 8日(金) 松島店
- ・ 11日(月) 上杉店
- ・ 14日(木) 松陽台店
- ・ 20日(水) 中新田店
- ・ 22日(金) 若林店
- ・ 25日(月) 泉店
- ・ 28日(木) 多賀城店